

平成30年1月31日

各 位

会社名 大日本印刷株式会社
代表者名 代表取締役社長 北島 義俊
(コード番号 7912 東証第1部)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション本部長
田村 高顕
(TEL. 03-6735-0101)

当社子会社（株式会社インテリジェント ウェイブ）の業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、当社子会社である株式会社インテリジェント ウェイブが平成29年8月2日に公表した業績予想について、別添資料のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

これによる、当社の平成30年3月期連結及び個別業績に与える影響は軽微であります。

以 上



平成 30 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社インテリジェント ウェイブ
 代表者の役職名 代表取締役社長 井関 司

(JASDAQ・コード 4847)

問 い 合 わ せ 先 専務取締役 経営管理本部担当 垣東 充
 TEL 03-6222-7015

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 8 月 2 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

記

平成 30 年 6 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,200	250	260	180	6.84
今回発表予想 (B)	4,692	190	197	129	4.92
増 減 額 (B-A)	492	△60	△63	△51	
増 減 率 (%)	11.7	△24.0	△24.2	△28.3	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 6 月期第 2 四半期)	3,793	247	274	191	7.27

平成 30 年 6 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 29 年 7 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,000	850	870	600	22.80
今回発表予想 (B)	9,700	480	500	340	12.92
増 減 額 (B-A)	700	△370	△370	△260	
増 減 率 (%)	7.8	△43.5	△42.5	△43.3	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 6 月期)	8,469	702	766	547	20.78

修正の理由

(1) 平成 30 年 6 月期第 2 四半期業績予想について

当社の主要な事業領域である金融業界、クレジットカード業界においては、キャッシュレス社会の推進や決済手段の多様化等の社会情勢の変化を背景として、設備投資案件に係る商談は堅調さを維持しており、当社にとって好ましい事業環境は続いています。

金融システムソリューション事業においては、特に、既存の顧客を中心とした決済に係るシステム開発の商談が活発に推移し、主にクレジットカードやスマートフォン決済の利用に係るシステム開発の売上高が増加しました。

また、プロダクトソリューション事業においては、サイバーセキュリティ対策関連の他社製品の販売に伴って、ハードウェアの販売実績が増加した結果、期初の予想を上回る売上を計上する見込みとなりました。

売上は期初の予想を上回る見込みとなりましたが、営業利益、経常利益、四半期純利益は、当初の予想を下回る見込みとなったため、平成 29 年 8 月 2 日付け「平成 29 年 6 月期 決算短信」で公表した業績予想を修正します。

金融システムソリューション事業においては、当第3四半期（平成30年1月1日～3月31日）に大型の開発案件の売上を計上する計画ですが、この案件の一部工程が不採算化する見込みとなったため、当期において、受注損失引当金143百万円を製造原価に計上しました。開発中のシステムの一部について、テストや開発の工数を追加することとしたため、相当する費用が発生する見込みです。

この結果、第2四半期の営業利益、経常利益及び四半期純利益は、当初の予想を下回る見込みとなりました。

(2) 平成30年6月期通期業績予想について

第2四半期業績予想の修正に併せて通期業績予想を修正します。

足元の商談の推移等を案件ごとに考慮して、売上高の予想を上方へ修正します。また、上記のとおり、第3四半期に計上予定の個別の開発案件の不採算化の影響を織り込んで、下半期の営業利益の予想を下方へ修正します。

今のところ、不採算化の悪影響は、第3四半期に収束する見込みですが、当初計画していたこの案件の利益が喪失するため、下半期の利益も減少する予想です。

よって、通期の営業利益、経常利益、当期純利益をそれぞれ下方へ修正します。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(参考) 当事業年度のセグメント別売上高及び営業利益

(単位：百万円)

セグメント名称	売上高	前回予想売上高
金融システムソリューション事業	8,500	7,700
プロダクトソリューション事業	1,200	1,300
合 計	9,700	9,000

セグメント名称	営業利益	前回予想営業利益
金融システムソリューション事業	470	780
プロダクトソリューション事業	10	70
合 計	480	850

以上